

早生温州ミカン優良系統「福岡3号」、「福岡4号」の果実品質特性					
[要約] 早生温州ミカン優良系統「福岡3号」は、「宮川早生」よりも着色の早い高糖度、良食味の系統である。「福岡4号」は、浮皮の発生が少なく完熟栽培が可能で、じょうのう膜が薄く、高糖度で良食味の系統である。					
担当部署	園芸研究所・果樹部・常緑果樹研究室			連絡先	092-922-4946
対象作目	果 樹	専門項目	品種選定	成果分類	品種選定

[背景・ねらい]

近年、温州ミカンの主産県では県独自の品種選定を進めており、本県でもオリジナル品種の育成・選抜に対する要望が高まっている。そこで、県独自の品種によりブランド化を図り有利販売を展開するため、果樹振興協議会と連携して、既存品種よりも品質が優れる系統を県内の産地から探索し、選抜する。（要望機関名：生産流通課（H11））

[成果の内容・特徴]

1. 「福岡3号」は、山川町で発生した「宮川早生」の1樹変異で、母樹の「宮川早生」よりも着色が早く、10月下旬～11月初旬には果皮の着色程度が8を超え、収穫期が10月下旬～11月中旬である（表1）。果実品質は、11月上旬で糖度11.5度、クエン酸0.7%程度となり、果肉は軟らかく食味が優れる（表2、一部データ略）。
2. 「福岡4号」は、山川町で発生した「興津早生」の枝変わり種で、収穫始期が11月上旬である。12月上旬まで浮皮の発生が少なく、完熟栽培が可能である（表1、3）。果実品質は、11月上旬で糖度11.4度、クエン酸0.7%程度であるが、12月上旬には糖度が12.3度、クエン酸が0.55%、甘味比が24.2と高く、じょうのう膜が薄く、果肉が軟らかく食味が優れる（表3、一部データ略）。

[成果の活用面・留意点]

1. 福岡県果樹推奨品種選定の資料として活用できる。
2. 普及に当たっては、排水が良く、日当たりの良いほ場への栽植やマルチ栽培等により、高品質果実を生産しブランド化を図る。
3. 「福岡3号」は、完熟期に果梗付近の果皮に亀裂と浮皮が発生しやすいので、収穫が遅くならないようにする。

[具体的データ]

表1 「福岡3号」と福岡4号」の果皮着色程度の推移(平成10～13年)

品種・系統	H10年			H11年			H12年			H13年		
	10/16	11/2	11/20	10/19	11/9	12/1	10/20	11/6	12/5	10/23	11/7	12/10
福岡3号	6.6	8.6	10	5.4	9.8	10	6.3	9.4	10	8.5	10	10
宮川早生	4.2	9.4	10	3.4	9.6	10	4.4	8.6	9.9	7.2	10	10
福岡4号	7.4	9.8	10	3.8	8.6	10	5.9	9.6	10	8.8	10	10
興津早生	5.4	9.4	10	3	7.7	9.2	5.6	8.9	10	7.9	9.8	10

注)1.着色程度は、果皮の着色部分を0(未着色)～10(完全着色)の11段階で分類
2.山川町の現地ほ場で調査

表2 「福岡3号」の果実品質(平成10～13年)

調査時期	品種・系統	着色程度	浮皮程度	果形指数	果重	果肉歩合	糖度	クエン酸	甘味比
月/旬				%	g	%	brix	%	
11/上	福岡3号	9.5	0.2	128	126	80.5	11.5	0.74	16.9
	宮川早生	9.4	0.6	132	123	79.8	10.4	0.72	15.5
12/上	福岡3号	10.0	1.7	126	130	77.5	12.5	0.64	21.1
	宮川早生	10.0	2.3	126	119	75.6	11.1	0.60	19.9

注)1.着色程度は、果皮の着色部分を0(未着色)～10(完全着色)の11段階で分類
2.山川町の現地ほ場で調査
3.甘味比は、可溶性固形物含量/クエン酸

表3 「福岡4号」の果実品質(平成10～13年)

調査時期	品種・系統	着色程度	浮皮程度	果形指数	果重	果肉歩合	糖度	クエン酸	甘味比
月/旬				%	g	%	brix	%	
11/上	福岡4号	9.3	0.1	128	125	82.0	11.4	0.66	19.0
	興津早生	9.0	0.3	124	123	82.3	11.1	0.79	15.0
12/上	福岡4号	10.0	0.6	125	130	79.6	12.3	0.55	24.2
	興津早生	9.8	1.1	120	136	79.3	11.5	0.68	18.3

注)1.着色程度は、果皮の着色部分を0(未着色)～10(完全着色)の11段階で分類
2.山川町の現地ほ場で調査
3.甘味比は、可溶性固形物含量/クエン酸

[その他]

研究課題名：早生温州の優良系統選抜

予算区分：経常

研究期間：平成13年度(平成11～13年)

研究担当者：牛島孝策、松本和紀、矢羽田二郎、堀江裕一郎